

AichiAigoNews

CONTENTS

- 「愛護福祉賞」受賞 (2頁)
- 顕彰審議会と村上基金審議会とは (3頁)
- 特集 ～新たなステージに向かって～
障害を持った人たちの「働きたい」
「地域で暮らしたい」という思いを応援！(4頁)
- より良い作業所を目指して (5頁)
- 職員のまなざし (6頁)
- ソフトボール大会 (7頁)
- 事務局だより他 (8頁)



特集より「あけぼの作業所 製パン作業」5頁



ソフトボール大会 8頁



Vol.88

Association on Intellectual Disability of Aichi
aichi_fk@nifty.com
http://homepage2.nifty.com/aichi_fk/

「愛護福祉賞」受賞

平成24年度の「愛護福祉賞」を愛知県知的障害者福祉協会会長 川口弘氏が受賞され平成24年6月4日に東京国際フォーラムにて開催をされました「平成24年度全国知的障害関係施設長会議」内の愛護福祉賞受賞式において表彰状を授与されました。

今年度の受賞者は3名、愛知県では歴代5人目の受賞となりました。

「愛護福祉賞とは？」

日本知的障害者福祉協会の発展に著しい貢献があり、かつ知的障害者福祉の分野において先駆的な研究または実践を行って優れた実績をあげ、あるいは多年、知的障害者の福祉に貢献して顕著な功績をあげた本協会関係者に対し「愛護福祉賞」を贈ってこれを顕彰するとともに、わが国の知的障害者福祉の向上に寄与することを目的とする賞です。



表彰理由として

昭和50年から現在に至るまで三十有余年、知的障害者福祉一筋に献身され、知的障害児施設「豊橋ゆたか学園」副施設長を経て、昭和59年からは知的障害者更生施設「ちぎり寮」施設長へ就任。昭和61年には当時としては先駆的に「生活訓練棟」を設置し、積極的に自立訓練を開始、数多くの利用者を社会に送り出した。また全国に先駆け入所者の入院付添に関する互助組織「看護基金」を施設単独で立ち上げた。他にも、夜間の生活空間と日中の活動空間を完全に分離した構造とし、施設生活と社会生活の隔離を解消した。このような数々の取り組みは県内はもとより県外の多くの施設のモデルになるものであった。

現職着任後も、共同生活介護事業、生活介護事業、相談支援事業の開設等々、意欲的に取り組まれている。福祉協会関係においては、愛知県にて更生施設種別代表を務め、自らの手法や障害理念等で牽引した。東海地区役員としては、地区の運営に携わり地区の結束をより強めてきた。平成16年より2年間東海地区会長も務め、「政策委員会」の設置、活動に力を注いだ。その後は、東海地区会の監事、愛知県の会長に再任し、400近い協会施設・事業所の連携と協力体制を築き、平成23年度には県福祉協会を一般社団化し、協会の充実・発展に尽力されている、というものです。

「愛護福祉賞」受賞記念祝賀会

平成24年9月22日ホテル日航豊橋にて受賞記念祝賀会が開催されました。当日は県内外の施設代表や政財界関係者、友人等約110名が出席し、盛大に会が催されました。



祝賀会は、発起人代表の賞賛の言葉で始まり、大村秀章愛知県知事、鈴木克昌衆議院議員、山脇実豊川市長、加藤 正仁日本知的障害者福祉協会顧問等より受賞者の人柄を称え労をねぎらうご祝辞を頂戴しました。記念品や花束の贈呈、祝電披露と続き、受賞者あいさつでは「愛護福祉賞を受賞できたのは、一緒に仕事に取り組んでくれた多くの仲間のおかげ」と深く感謝の意を述べられました。

顕彰審議会と村上基金審議会とは

愛知県知的障害者福祉協会 副会長

顕彰審議会・村上基金審議会代表

川崎 純夫



顕彰審議会は、本協会加入施設の中から、社会福祉施設において永年、施設長として従事している方の中から、功績が顕著であると認められた方を、愛知県知的障害者福祉協会から各種団体、行政に対して推薦していく審議会です。

主な、推薦先は、各市町村の社会福祉協議会会長表彰、各市町村長表彰、愛知県社会福祉協議会会長表彰、愛知県知事表彰、全国社会福祉協議会会長表彰、厚生労働大臣表彰、褒章、叙勲等です。

顕彰には、受賞する順番があり、順番を経ないと上位の表彰を受けることが出来ないことになっております。そのため、各地区の顕彰審議会の委員によって、推薦者の実績調査を行い、実績調査により、上位表彰への推薦を行っていきます。

永年、社会福祉事業に従事していても、なかなか、自分で自分を推薦するのは出来ませんよね。申請については、審議会の委員と事務局が、本人に代わって推薦書の作成と申請を行いますので、煩わしさはありません。しかし、中には、「推薦しますね」とお誘いしても「私はいいです」とか、辞退される方も見えますが、我々が行っている社会福祉事業や障害福祉の事業を一般の社会の人たちに広く認知してもらうという意味や、後に続く後輩のためにも、是非、辞退されず受賞を受けてもらいたいものです。

また、愛知県知的障害者福祉協会では、本協会加入施設に10年以上勤務した方に対し、感謝状を授与していますが、さらに、顕彰審議会では、愛知県知的障害者福祉協会の発展や運営において貢献された役員やその功績が顕著な方を選考し、毎年、開催している愛知県知的障害関係施設職員研究大会で「愛知県知的障害福祉協会功労賞」ということで、その功労を称え表彰をさせていただ

いています。

社会福祉に永年、貢献して仕事を続けてきた功績を称えることは、今後の知的障害者福祉事業の発展につながり、ひいては知的に障害のある方の地域生活の拡大に寄与するものであります。

顕彰審議会と同様に、村上基金審議会という審議会があります。ご存じの方もお見えでしょうが、村上基金とは、故村上英治先生の遺志によって知的障害児者の福祉増進に関わる先駆的な実践研究、学術研究、愛知県知的障害関係職員研究大会において発表等を行ったものの中から、その研究、発表等が優れたものに賞を贈ります。また、知的障害児者に対する優れた福祉事業活動に対して、助成金を交付することにより、施設職員の意欲向上と広く知的障害児者福祉の増進に寄与することを目的としています。

賞と助成金の額は、賞の場合、実践研究、学術研究については、原則として1発表20万円までとします。愛知県知的障害関係職員研究大会の発表については、原則として1発表3万円（ギフト券）までとします。助成金は、事業活動については、原則として1事業20万円までとします。しかし、愛知県知的障害者福祉協会村上基金審議会が認めた場合は、この限りではありません。

交付申請にあたっては、村上基金（賞・助成事業）交付要綱をお読みいただき申請して下さい。なお、ご不明な点やお問い合わせは、愛知県知的障害者福祉協会事務局までお願いします。



特集 ～新たなステージに向かって～

『障害を持った人たちの「働きたい」 「地域で暮らしたい」という思いを応援!』

社会福祉法人岩崎学園 ステップワークス IWASAKI

所長 鈴木 和代

ステップワークス IWASAKIの前身である岩崎通勤寮（昭和47年設立）では、設立当初より知的な障害を持つ人たちの『暮らしの安定』と『就職の継続』を基に将来の自立生活を目標とする支援を行ってきました。約30年の間に培った「生活支援」と「就業支援」の経験を礎とし、平成23年4月に障害者自立支援法に基づく障害福祉サービス事業所として新たな一歩を踏み出しました。

岩崎通勤寮は実生活を通して自分の生活スタイルを確立するために、①就労を継続するための職場との調整②職場の仲間や地域の人たちとの円滑なコミュニケーション力の獲得③社会人としてのマナーの獲得④生活スキルの獲得（基本的な生活習慣・健康管理・金銭管理・余暇の活用など）を目指してきました。当初から養護学校高等部の卒業生や児童養護施設からの利用が多いことから若者や軽度の人に対応してきましたが、支援する中で本人の障害受容が十分でないことから生まれる「地域社会と本人の能力とのギャップ」に本人が困惑し、かつ、社会に適応する社会性やコミュニケーション力の獲得が十分でないために、就職をしてもすぐにリタイアしてしまう人は少なくありませんでした。

このように、現に就職している方への就業継続支援や離職後の再チャレンジの難しさ、引きこもりとなっている人への社会復帰の支援など新たな課題も顕在化しています。

その現状も踏まえ、これまで通勤寮が果たした生活支援・就業支援体制を継承するとともに、就職に向けたトレーニング機能と、離職した方へのアフターフォローに力を入れ、地域社会での自立生活ができるようにと考え新体系へ移行しました。

移行と並行して、平成23年度「社会福祉施設等耐震改修等臨時特例基金」を活用し、全面改築

を実施しました。昼夜分離を図るために生活の場と日中活動の場を建設し、平成24年4月より新しい建物で再スタートしています。

生活の場では、以前、一部屋3～4人の相部屋で、「プライバシーがない」などの不満の声がありましたが、いざ、個室になると「ひとは淋しくて眠れない」と言う声は最初は聞かれました。今回の改築で自分の部屋があり、プライベートな時間が保障され、また、共有スペースでは他の利用者と過ごすことで仲間意識が育ち、思いやりや協調性を養うことが徐々にできるようになってきています。中にはコミュニケーションが上手に取れないことから気持ちのコントロールができずトラブルもありますが、2年間で地域の中で一市民として暮らせるような生活力を養えるようにと願っています。

日中活動では就職を目指して、まずは『働くとは？』と言うこと、働き続けるために必要とされる生活の構築からスタートし、就職するために必要なスキルの獲得を主に農作業とビジネスマナーやコミュニケーション力の獲得などの座学を通して学んでいます。

最後に、これからも障害を持った人たちが紆余曲折しながらも、「働きたい」「地域で暮らしたい」という思いを応援するとともに、一人ひとりが一市民として期待される役割（納税や市民活動への参加）を果たせるような支援をしていきたいと考えています。



『より良い作業所を目指して』

社会福祉法人若竹荘

あけぼの作業所

生活支援員 嘉森 喬子

社会福祉法人若竹荘あけぼの作業所は、障害者自立支援法に基づく指定障害福祉サービスの多機能型事業（就労移行支援事業・生活介護事業）を行っています。現在の定員は就労移行支援6名、生活介護事業74名の計80名です。平成22年2月から豊川市のご好意によって市の建物の一部をお借りして作業所を引っ越し解体、その跡に保育園を改築し、保育園跡にあけぼの作業所の改築を行い、平成24年9月12日に竣工式を迎えました。1つの事業所が2か所の建物に分かれて生活をする期間が約2年半。車で10分という距離がとても遠く、状況把握、情報共有がなかなか出来ず、職員間の連携の必要性をより強く感じた期間でした。新しい作業所が完成し、みんなが一緒に生活・作業できることになり、改築期間に比べ生活しやすくなることはもちろんですが、大人数と一緒に生活するにあたって大変なこともたくさんありました。私が所属する製パン作業課は、厨房器具も新しいものが入り、場所も広くなったのですが慣れるまでは大変です。今までに慣れている分、初めは使い勝手が悪いのはもちろんですが、面積が以前に比べ、倍近くの広さの為、一つひとつの動きが大きくなってしまいます。収納場所も変わってしまい、職員自身が覚えられていないので利用者さんに教えるのも一苦労です。利用者さんが作業に関わりやすいように準備をしたものの、初めはやっぱり大変です。広くはなったものの倉庫や収納が限られていたり、厨房器具の配置によって物を置くことのできる壁面がなかったりと頭をかかえることばかりで、作業をするたびに改善点が出てきます。新しい厨房器具の使い方を覚えたり、実際に使用してみてパンやお菓子の出来具合を確認してみたりと、やるべきことは数えきれないくらいあり、引越し後は毎日毎日頭と体をフル稼働させての作業となりました。それでも大変な毎日の中にも、施設が新しくなって快適になったことがあります。今までは作業場所が限られており、一つの作業を終えて片付けまでしない

と次の作業に取り掛かれなかった時がありましたが、今では十分な作業場所が確保されており、複数の作業を同時進行することが出来、作業効率が上がりました。今後慣れるに従いもっと作業効率は上がって行くと思います。利用者さん一人ひとりにもしっかりと作業スペースがあり、作業しやすい環境になったことで以前に比べ色々な作業に関わる事が出来るようになり、作業の幅が広がりました。そして、今まではなかった新しい器具が入ったことでより衛生管理を徹底する事が出来ています。利用者さんにも器具の使い方を覚えてもらうことで作業の幅が広がり、作業効率も上がります。改築期間中は給食ではなくお弁当でした。給食とはまた違った苦労が栄養士、調理員にはあり、毎日のお弁当配達もとても大変でした。それが現在ではみんなが食堂で温かい給食を食べることができています。作業所全体の共有スペースも以前より広くなり、休憩時間等利用者さんはそれぞれいろいろな過ごし方をしています。改築期間中には離ればなれで見ることのできなかつた利用者さんたちの姿を見られてとても嬉しく思います。そして職員全員が同じ建物にいて、改築期間中なかなかうまくいかなかったことが少しずつ改善されて行ければと思います。毎日の終礼での情報共有はもちろん、作業においても職員同士協力して行ければと思います。新しい施設で、利用者さんがより生活しやすいよう職員全体が協力し、今後も利用者さんが毎日楽しくあけぼの作業所へ通ってきて下さることを願っています。



◆◆◆◆職員のみなざし◆◆◆◆

「作業支援を通じて思うこと」 社会福祉法人永美福祉会 しらさぎ福祉園 生活支援員 佐藤 史和

私の施設は生活介護事業と就労継続支援B型事業を実施しています。作業活動は、縄跳びの組み立て等の軽作業と陶芸・さをり織り・パン製造の自主製品の2本立てで取り組んでいます。今年の3月から近隣の作業所からの紹介で縫製会社から毎日コンスタントに仕事を依頼されています。仕事はスーパーマーケット等の店先によくある「大安売り」の大きなのぼりを2つに折る・袋に入れる工程など4つの工程を役割分担して行っています。最初の頃は利用者の方々も戸惑いがあり、職員が繰り返し手本を示すことや、ある工程を行うのが不得手な利用者の方が、その工程が得意な利用者の方と2人で協力しあうことにより、お互いに意識しあい「Aさんには負けないぞ」というような意識が徐々に芽生えています。そのことがお互いに自信になり、表情も生き生きとしている様子が窺えます。そんな光景を職員として見ていると大変うれしく思い、今後は今以上難しい作業にも取り組んでいけるように、利用者の方と協力しながらやっていきたいと思えます。



「ひとつ屋根の下」 社会福祉法人 豊橋市福祉事業会 豊橋ゆたか学園 保育士 渡辺 裕介

豊橋ゆたか学園は、障害を持った3歳から18歳の児童が45人、ひとつ屋根の下で生活しています。そんな学園に飛び込んだのが4年前。児童の他害、自傷、強いこだわり、その他もろもろの問題行動・・・保育園から転職して来た私が、それらの行動を受け入れるには、少し時間がかかりました。その頃の私は、問題行動という結果だけを見て、「これはしてはダメ」「あれはしてはダメ」と声を掛けるばかり、改善されない問題行動にどう対処してよいのか行き詰っていました。そんな時、先輩に、「ここにいる子たちの問題行動は、ひとつひとつ意味があり、自分を表現しているんだよ」と教えられ、問題行動という結果より、利用者が何を伝えたいのかを考えられるようになりました。正直、今でも利用者の思いを理解し、満たしてあげられているかはわかりませんが、これからも利用者に寄り添い、利用者がかつても笑顔で生活できるような支援を心掛けていきたいです。



「必要とされる喜び」 障害者支援施設「蔵王の杜」 生活支援課長 佐藤 住令

「明日も来る？」1日の仕事を終えて帰る時、利用者の方からこのように声をかけられることがよくあります。その方からすれば、「さようなら」程度の挨拶なのかもしれませんが、しかし、このひと言が1日の仕事の疲れを癒してくれます。自分を必要とする人がいることに喜びを感じるのです。周りの人から必要とされなくなった時、人は生きる張り合いを失います。特に障害を持った人たちは、自分は人の役に立たないと考えがちです。「自分が必要とされていると感じること」、私は利用者の方々に対する日々の支援の中で、このことを大切にしたいと思っています。掃除でも、食事の片付けでも、人に対するちょっとした言葉かけでも、何でもいいのです。自分のしたことに対して喜び、感謝する人がいるということが、どんなに彼らを元気づけるかを想像するのは難しいことではないでしょう。支援する側も利用者側も、お互いが相手を尊重し、お互いが相手を必要とする関係を築くことが私の理想です。「明日も来るよ」と答えながら、今日も私はすがすがしい気持ちで職場を離れるのです。



「実習生の皆さんと」 社会福祉法人共生福祉会 ワークショップすずらん 生活支援員 奥村 敏明

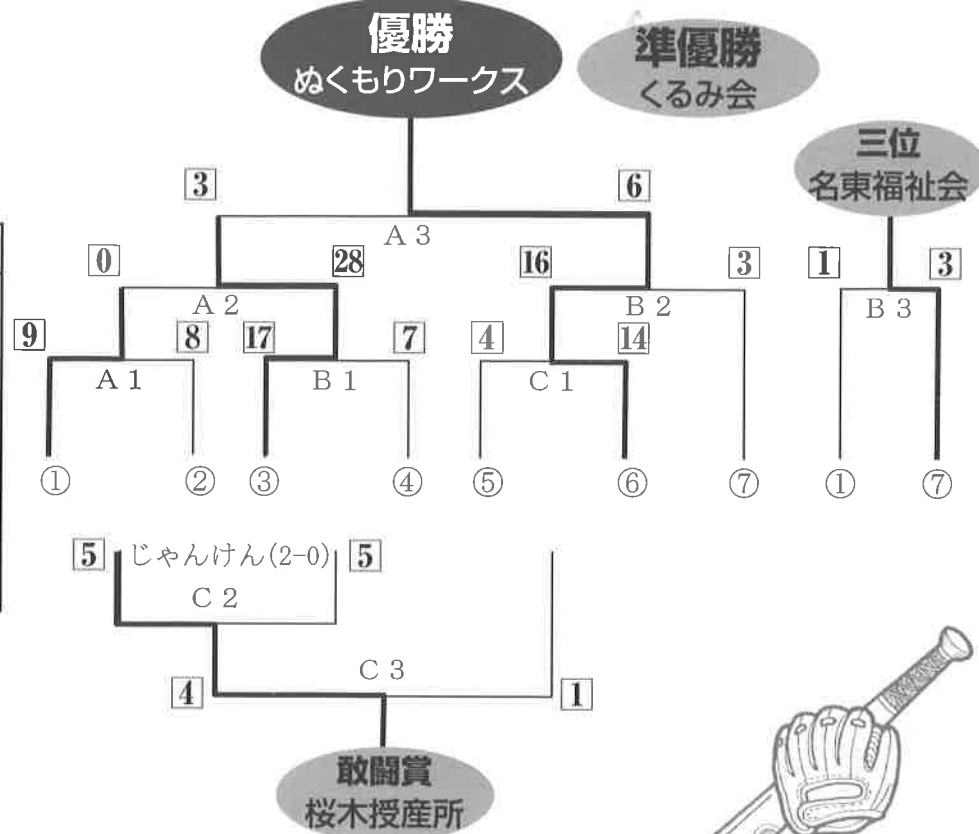
当会は就労継続支援A型事業でパンの製造、販売を行っています。実習生の皆さんにも、一緒にパン製造にかかわっていただいております。実習生の皆さんには、障害者と共に働くことを通して、社会のあり方や働くことの意味を学んでいただきたいと思います。しかし、実際は実習生の皆さんから得ることが多いことを痛感しています。その一つが、実習生がくると、障害者メンバーが生き生きと働き始めます。いつも、嫌々仕事をしている人が、突然、勤勉になるのです。「何でいつもと違うんですか」と、突っ込みを入れたいくなるのですが、それを我慢してみると、工場のあちこちで、交流が始まります。パン作りに関しては、彼らの方が先輩なので「これはね、こうしたらいいよ」とか「これじゃ、だめだよ」などと教えたり、困っているときには手助けしたりします。最初は恐る恐るパン生地に触っていた実習生も、そんな雰囲気の中で仕事を覚え、障害者メンバーと心を通わせていくのです。一週間の実習が終わる頃には、障害者の誰々さんではなく、「Hさん」「Mさん」という同じ仕事をした仲間になり、別れを惜しんでいます。仕事をしている中では、しんどいことも多いのですが、このような実習生の皆さんとの出会いが、わたしたち皆に元気をくれます。

太陽も暑いが プレーも熱い

平成24年10月3日、4日 名古屋市の小幡緑地公園西園にて第38回愛知県知的障害者福祉協会ソフトボール大会が、第一次リーグ7チーム、第二次リーグ7チーム、合計14チームの参加によって行われました。昨年は第二次リーグが途中、雨のために中止になりましたが、今年は両日も快晴で暑い日ざしの中どのチームもハッスル好プレーで熱戦をくりひろげました。

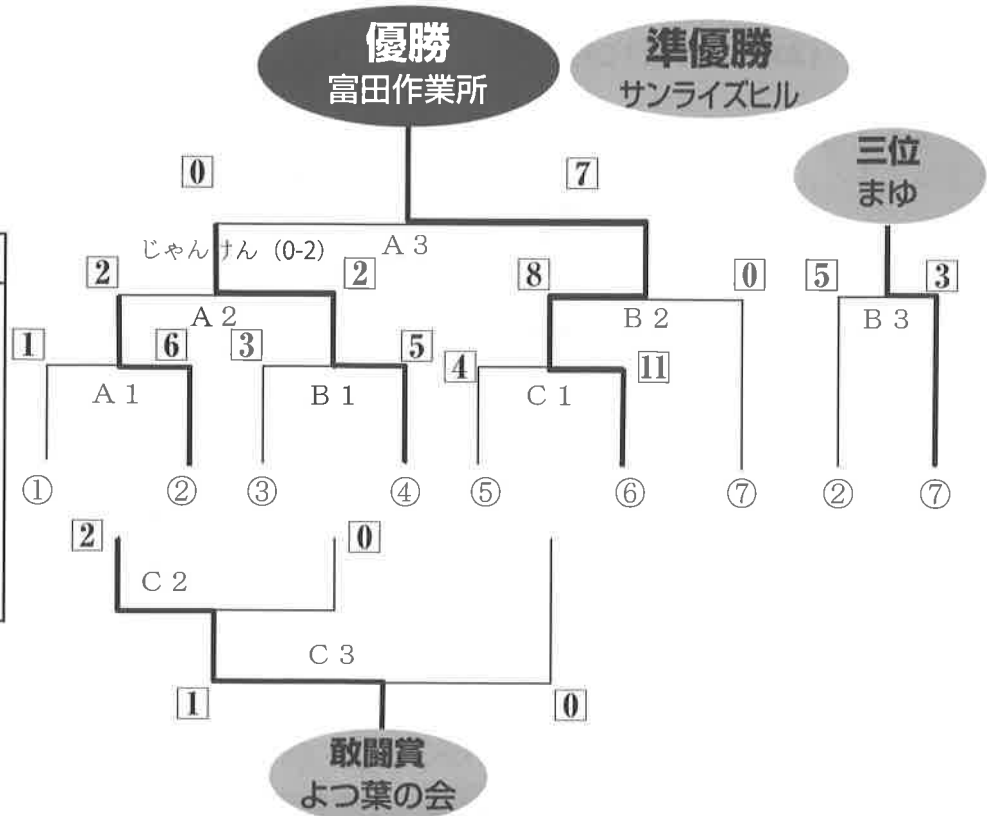
試合結果表
【一次リーグ】

凡例	
①	桜木授産所
②	あさひ会
③	くるみ会
④	しだみ学園
⑤	サンフレンド
⑥	ぬくもりワークス
⑦	名東福祉会



試合結果表
【二次リーグ】

凡例	
①	よつ葉の会
②	まゆ
③	あじま作業所
④	サンライズヒル
⑤	まるくてワークス
⑥	富田作業所
⑦	きそがわ作業所



事務局だより

「ヘルマンハーブチャリティーコンサート 2012in 名古屋」 寄付金を頂きました！

日本ヘルマンハーブ協会主催によるチャリティーコンサートが、中電ホールにおいて去る9月25日（火）に開催されました。

このコンサートは、以前、本協会のホームページでも、開催の案内をさせていただきましたが、ヘルマンハーブという楽器は、ドイツの農場主であるヘルマンフェー氏がダウン症をもつ息子のために25年まえに開発されたものです。

日本でもヘルマンハーブの普及が進んでおり、愛好家によるハーブを楽しんでおられます。当日は、大勢のヘルマンハーブのファンの方々がコンサート会場に埋め尽くされました。中には施設関係者の方も参加されていました。

曲目も「エーデルワイス、見上げてごらん夜の星を、翼をください」等なじみ深い曲目であり、ヘルマンハーブの音色は心の底に染みる、澄んだ音色であり、素晴らしい演奏に大変感動いたしました。演奏プログラムの後半に、本協会に対しヘルマンハーブジャパン有限会社梶原社長様から寄付金の贈呈式があり、本協会の磯村副会長と事務局が出席いたしました。



愛知県内においても、和太鼓その他の楽器演奏を自立訓練の一環として取り入れているところもあると思いますが、この楽器は、楽譜がなくても弾けるように工夫されており、障害があっても、こうした楽器を使うことにより、音楽療法への多様性と可能性を強く感じました。寄付金の贈呈式では、大勢の鑑賞されている方々に対し磯村副会長から障害者の現状を話す時間もとっていただき、障害者への理解促進の一助とすることができました。寄付金につきましては、障害者福祉のために有効に活用させていただきます。

義援金を頂き心より感謝申し上げます。

平成24年度 東日本大震災義援金の中間報告 (本年4月から10月分)

義援金をお寄せ頂いた法人、施設・事業所は次のとおりです。

社会福祉法人 さふらん会
NPO法人生活介護事業所 しらとり
社会福祉法人 愛知玉葉会藤花荘
社会福祉法人 西春日井福祉会
社会福祉法人 よつ葉の会
社会福祉法人 ひかり学園

義援金合計額 283,866円

本協会では、ホームページにも掲載しておりますが義援金の募集は、平成25年2月28日（木）まで継続いたしますので、引き続きご協力くださるようお願いいたします。

日知協全国・会長・局長会議より

東日本大震災から早いもので1年半以上が経過しました。去る10月31日・11月1日に開催された日知協全国会長・事務局長会議において東北地区知的障害者福祉協会の分枝勝則会長から全国より多大なる支援を頂いたことに対する感謝のご挨拶がありました。

また、交流会において福島県、宮城県、岩手県の代表者からの報告では、復興への道のりは非常に長い年月が必要とされます。

東北三県の共通点として、施設の整備は進みましたが風評被害もあり、障害者・児を支援する人材難が続いており、現在いる職員に大きな負担と疲労が蓄積していることが今一番の課題となっています。こうした課題を少しでも早く解決して頂くことを懇願されました。

一般社団法人 愛知県知的障害者福祉協会事務局

〒440-0823 豊橋市南瓦町110番 TEL 0532-87-4333 FAX 0532-87-4334
E-mail : aichi_fk@nifty.com ホームページURL: http://homepage2.nifty.com/aichi_fk/